

## 新日鉄住金ソリューションズ株式会社

## “技術力のNSSOL”を数字でも裏づけ

## 2012年度ORACLE MASTER Platinum 国内最多取得を達成



NS Solutions

日本市場をともに開拓した  
オラクルの先進パートナー

システムの企画・構築から運用までライフサイクル全般にわたるサポートにより、企業の情報システム活用の高度化を支援するシステム・インテグレーターであるNSSOL。近年は、大規模でミッションクリティカルな要件に応える、クラウドサービスの開発と提供にも注力している。

NSSOLとオラクルとの関係は、20年以上前に始まっている。以来、強力なパートナーシップのもと、ミッションクリティカルなシステムのデータベース基盤や大規模統合データベースの構築など、多くの実績を積み上げてきた。

同社 ITインフラソリューション事業本部 ITエンジニアリング事業部長 北沢 聖氏は「当社のオラクルのテクノロジーに関連したビジネスの特徴は、最先端の技術にいち早く取り組み、日本の市場をともに開拓してきたことにあります」と話す。たとえば、オラクルのエンジニアド・システムズであるOracle Exadata Database Machineにおいて、国内システム・インテグレーターでは最初の実機検証を開始し、数多くの大規模ミッションクリティカルシステムへの導入実績をもつ。また、リリースされたばかりのOracle Database

“技術力のNSSOL”との高い評判を得て、早くからオラクルのテクノロジーを活用したビジネスを展開している新日鉄住金ソリューションズ株式会社(以下、NSSOL)。同社は、Oracle Universityを活用するなど技術力の継続的強化に向けた社内の体制を強化し、2012年度には国内最多となるORACLE MASTER Platinum認定取得者を輩出した。NSSOLにとってオラクルの認定資格にはどんな意味があるのだろうか。同社の取組みについて話を聞いた。

12cでも、いち早く検証作業を進めている。「12cの採用の本格化に合わせ、数々の新機能を有効に活用する提案をしていきます」(北沢氏)。

技術力のアピールに向けて  
資格取得をミッションに

「ITが日々進化するなか、技術者には、データベースだけでなく、サーバーやストレージ、ネットワークなどに加え、仮想化、統合、クラウドといったキーワードに関連する幅広い知識が求められるようになりました」(北沢氏)。こうした知識を、日々現場で働いている技術者たちが得るにはどうしたらいいのか。同事業部 ITアーキテクティンググループ シニア・マネジャー 平川 伸一氏は「資格を取得する過程で体系的に学ぶこ

とが、一番短期間で可能で有意義だと考えました」と話す。

“技術力のNSSOL”として知られ、常にオラクルの最先端技術に取り組んできた同社にとって、オラクルに関する技術力は“あって当たり前”のこともである。一方で、技術者育成の基本方針は、“資格よりも実践力”という傾向があったという。そうした傾向に変化をもたらしたのは、ITの進化とオラクルの認定資格に対するユーザー企業の認知の向上であった。「お客様のなかでもオラクル認定資格に対する認知が上がったからか、提案時にオラクルの資格取得者の人数を聞かれるケースも増えてきたことも後押ししました」(平川氏)。

そこで同社は、オラクル認定資格の取得に注力するという決断を下す。「資



新日鉄住金ソリューションズ株式会社  
ITインフラソリューション事業本部  
ITエンジニアリング事業部長

北沢 聖氏



新日鉄住金ソリューションズ株式会社  
ITインフラソリューション事業本部 ITエンジニアリング事業部  
ITアーキテクティンググループ シニア・マネジャー

平川 伸一氏

格取得を奨励しただけでなく、資格取得をおもに対象となる若手技術者の「ミッション」とし、勉強のための時間が十分に割けるように、社内の体制も整えました」(北沢氏)。

ターゲットは最難関のORACLE MASTER Platinumである。これには、2つの意味がある。「1つは、ORACLE MASTER Platinumが技術者のスキルの指標となり、技術力のアピールにつながる」こと。もう1つは、ORACLE MASTER Platinumが唯一実技試験を伴うことだ。平川氏は「体系的な知識と現場での経験の両方がないと合格できないからこそ、実務に活かせる」とほかの資格との違いを指摘する。

高い技術力には定評があるNSSOLだけに、資格取得に向けた取組みを強化した結果はすぐに現れた。2012年度の年間ORACLE MASTER Platinum取得者数で国内No.1になったのである。

### 技術者個人だけでなく 会社としての強みもアピール

「体系的な技術習得、プロジェクト

経験、そして社内情報共有が、技術力強化の3本柱と考えています」(平川氏)。国内最多のORACLE MASTER Platinum取得者数を記録した同社だが、ORACLE MASTER Platinumの取得は、あくまでデータベースエンジニアとしてのスタートラインだと位置づける。「本人の自信につながりますし、お客様へのアピール力もあります。ですが、資格取得で得た製品技術をベースに実務を経て、はじめて利用技術として活用、発展させていけると考えています。ORACLE MASTER Platinumは、実践を積むためのベースとなる資格なのです」と平川氏は強調する。

ORACLE MASTER Platinumが個々の技術者としての技術力の指標だとすると、オラクルの世界共通のパートナー認定制度として、特定の分野における専門的な能力を認定するSpecializationは、会社としての技術力を示す指標だ。すでにNSSOLは、Database、Enterprise Manager、Business Intelligenceなど、幅広い分野で認定を受けている。Specializationの意義を「当社の技術

力と製品戦略の方向性を明確に顧客に伝えるためにも重要」と平川氏は語る。

競合との差異化を図り、ユーザー企業によりよいソリューションを提供するためには、個々の技術者が高い技術力をもつことは当然として、さらにその技術力や得意分野をユーザー企業にわかりやすいかたちで伝える必要がある。そのためにも、NSSOLでは資格取得に向けた体制を推進していくという。最後に北沢氏は「今後も技術力を強化し、お客様のビジネスの発展に貢献していく。そのためにもオラクルの認定資格を活用していきたい」と意気込みを語った。

#### PROFILE

#### 新日鉄住金ソリューションズ株式会社

1988年発足。1991年に米国オラクル・コーポレーションとの戦略的提携契約を締結し、日本国内におけるオラクル製品の普及に貢献。Oracle Award開始以来、10年以上にわたりさまざまな分野を受賞し、オラクル製品の先進的・大規模な導入を手がけるシステム・インテグレーター。2012年に新日本製鉄株式会社と住友金属工業株式会社との合併を受けて現社名に変更。

## 受験を通して能力が高まり資格取得で自信がついた

NSSOLの資格取得に向けた取組みのなかで、ORACLE MASTER Platinumを取得した高橋 理子氏と美坂 里徳氏。それぞれ入社6年目と5年目の若手社員だ。上司の推薦を受けて受験した高橋氏は「いずれ挑戦しようと思っていましたが、難しいと聞いていただけに不安はありました」と話す。試験で行き詰まったときには、現場での先輩からのアドバイスを思い出して解決できたという。「それだけ実践に近い試験なので、今の業務にも活かせませす」(高橋氏)。資格取得によって自信が付き、お客様からの信頼度もアップしたように感じるという。

美坂氏は、試験を通して自らの能力を高められたことを評価する。「2日間の試験に臨む体力と精神力は、現場の業務に通じるものがあります。厳しい試験を乗り越えた技術力を社内外に証明できました」と美坂氏。受験を通して新しい技術を体系的に習得できた点もメリットだという。

2人とも資格取得に取り組んでか

ら1年以内に資格を取得。このことから、同社の技術者のポテンシャルの高さがうかがえる。



ITインフラソリューション事業本部 ITエンジニアリング事業部 エンジニアリング第四部の高橋 理子氏 (写真右)と、同事業部 ITアーキテクティンググループの美坂 里徳氏。

### 日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F  
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ  
お問い合わせ窓口

ORACLE  
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education/>